

## 1 学校教育目標

広い視野をもち、夢を追いかけ、未来にはばたく人間を育成する。

- ・自ら学ぶ人
- ・協力しあう人
- ・健やかな人

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ生徒を育む学校</li> <li>・豊かな心を育む学校</li> <li>・地域が誇れる学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標をもって自ら学ぶ生徒</li> <li>・規範意識をもって互いに協力しあう生徒</li> <li>・健康を意識し、体力向上に努める生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・向上心をもって実践力、指導力を高める教師</li> <li>・生徒に寄り添い、情熱をもって職務を遂行する教師</li> <li>・生徒、保護者、地域から信頼される教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

新型コロナウイルスの影響が長引く中、教育活動の制限が余儀なくされている。この機を逃すと3年生にとって正規の学校行事を経験できない3年間になってしまう。そのため令和4年度においては、コロナ禍であってもできる限り正常に近づけた教育活動に取り組む学校経営方針で臨んだ。3年生にとっては、「運動会」「江北桜祭」も初めての通常開催となったが、最上級生としてリーダーシップを発揮し、思い出に残る行事を経験することができた。また、学校生活全般で、最上級生として伝統の継承と発展に貢献し、後輩たちへ立派にバトンを受け渡した。その他、前年度の成果と課題については以下の通りである。

- ① 基礎学力定着については今年度も課題が残った。基礎学力が不足している生徒が多く、小学校からの復習や学習習慣づくりから始めなければならない。デイリーノートを活用し、学習習慣の定着に向け指導・助言を行うなど、毎日の学習に向かう学習習慣作りと授業や放課後学力補充を中心に必要な復習や繰り返し学習を行っていく。
- ② 全体的には落ち着いた学校環境であるが、集団生活に適応できない生徒や規範意識の低い生徒、SNS を介したトラブルも発生している。朝の読書活動の定着を目指し、豊かな心の育成や適切な行動が身に付く指導を継続して実施していく。
- ③ 週1回の特別支援委員会を通して、特別な支援を必要とする生徒の情報交換と課題の把握を行っている。スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）と連携し、組織的な対応を行っている。今後も学校全体で特別支援教育についての理解を深め、SC や SSW などの外部機関との連携を深め、組織的な対応を進めていく。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン（基礎学力の定着、ICTの活用推進）	○	○	○	○	○
2	豊かな心をもつ生徒の育成	○	○	○	○	○

## 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン（基礎学力の定着、ICTの活用推進）							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
区学力調査通過率の引き上げ		年度末到達度確認テスト 正答率 60% 令和5年度区調査通過率 61%		年度末到達度確認テスト 平均正答率 57.5% 令和5年度区調査通過率 67.8%		・令和5年度区調査通過率は7.8%大きく上回った。 ・学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	ICTを活用した授業推進	全教科	年2回	授業内容に即した効果的なICTの活用。また足立スタンダードを意識した指導案の作成と授業実施	年2回の授業観察時に実施の確認	全ての教員の実施を確認し、効果的な授業方法の工夫を検討する。	授業でのICTの活用はほぼ行われているが個人差が見られる。	一人一人のタブレットの活用には教科により差がでている。今後は、教科の特性に応じた活用、効果的な活用方法を工夫していくことが課題である。	○
2 継続	学習コンテスト (漢字・計算・スペリング)	3教科	年3回	3教科の基礎的内容の定着を図る。 ・漢字7月 ・スペリング11月 ・計算1月	プレテスト 本テストの実施	平均合格率80%を目指し、達成感と自己肯定感を高める。	学習コンテストに向けてプレテストと本テストを行うことで、達成感と自己肯定感が高まった。	プレテストと本テストを実施することでケアレスミスの減少に効果があった。コンテスト後の補充学習にも更に取り組んでいく。	◎

3 継続	読書指導と 学力補充	3教科	年間	朝のベーシックタイムと 放課後の学力補充におけ る読書指導および基礎反 復学習	進行管理（計 画と実施）	計画の90%以上の 実施	進行管理を2か 月ごとに実施 し、90%以上 の取組ができ た。	計画の90%以上は 十分達成した。学力 補充の時間をもう少し確保したいところ ではあるが、読書指 導の時間も大切にし ていく。	◎
4 新規	区学力調査 の検証テス トの実施	3教科	9月	区学力調査の検証テスト を実施し、基礎学力の向上 を図る。	区学力調査の 検証テストの 実施	3教科の通過率、正 答率の5%の上昇	3教科の通過率 は6.2%、正 答率は3.3% の上昇であっ た。	通過率は目標を達成 できたが、正答率は 少し届かなかった。 今後は目標をもって 取り組ませていく。	△
5 新規	家庭学習の 習慣化	全学年 全教科	通年	家庭学習を習慣化させる ためにデイリーノートを活 用し、自学自習の習慣化 を図る。	デイリーノー ト、家庭学習 ノートの確認	毎日の家庭学習の 取り組み率90% 以上。家庭学習の定 着を目指す。	毎日のデイリー ノート、家庭学 習ノート家庭学 習の提出率は 90%であっ た。	担任による毎日の確 認作業は大変ではあ るが、引き続き取り 組んでいく。学習委 員会のキャンペーン や生徒同士による声 掛けは大変有効であ るので今後も活用し ていく。	○

重点的な取組事項－2		豊かな心をもつ生徒の育成			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成 度	
豊かな人間性と社会性をもち充実した学 校生活を送る生徒の高い割合	「学習や生活に関する調査」で該当 項目の肯定的評価を以下の規準で判 断 A=90%以上 B=70～89% C= 70%未満	「思いやりの気持ち」「善悪の 判断」「物を大切にする気持 ち」について、生徒の意識調 査での肯定的評価は90%以 上「A」評価であった。	豊かな人間性と社会性をもち学 校生活に取り組む生徒の割合は、 学年が上がるごとに高い数値と なった。様々な場面で上級生がリ ーダーとなり、集団をまとめてい く場面が多くみられる。良き人間 関係を継続して築いていく。	◎	

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
充実した道徳教育	道徳授業の時間 A=35回以上 B=30～34回 C=30回未満  調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員のローテーションによる道徳授業の実践</li> <li>いじめ撲滅週間の実施</li> <li>人権学習週間の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳授業については「A」（35回実施）</li> <li>全教員によるローテーションを実施し、授業変更等で授業時数を確保した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒からの発言も増加し、道徳的な思考を身に着けていっている。</li> <li>年間計画に沿って指導を行っているが、時期によって適した題材の活用も実施していく。</li> </ul>	◎
意欲的な学習活動	調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のやる気を引き出す足立スタンダードに基づく授業</li> <li>学習課題の適切な管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の意識調査での肯定的評価は89%「B」評価であった。</li> <li>放課後、学校図書館を利用し、次週に取り組む生徒が増加している。定期テスト前は、毎日、満員となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒から家庭学習ノートの提出を呼びかけたり、定期テストの予想問題を作成し全員で取り組むなど学習委員会を活用した取組により良い雰囲気が出てきている。</li> <li>家庭学習ノートの工夫も見られ、高評価のノートを展示することでさらに意欲が高まった。</li> </ul>	○
思いやりの心をもった生徒の育成	調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事への自主的な参加促進</li> <li>生徒の自主性を生かした生徒会活動（委員会、部活動、交流活動等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の意識調査での肯定的評価は97%「A」評価であった。</li> <li>生徒会主催の交流活動・企画は大変好評で、たくさんの生徒が積極的に参加し、学年を超えた交流の場となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会や江北桜祭などの学校行事では、ほとんどの生徒が達成感や協力の大切さを学んだ。</li> <li>生徒会主催の交流活動が活発に行われ、参加者や応援者などかわりをもととする生徒が増加し、生徒からも高評価となった。今後も継続させていく。</li> </ul>	◎
読書活動の推進	学校図書館の利用者数（月平均） A=400人以上 B=300人～399人 C=300人未満	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書の励行</li> <li>図書委員会の活動活性化</li> <li>学習活動での学校図書館の利用促進</li> <li>放課後の自習での活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館の利用者数（月平均）A=400人以上となった。</li> <li>放課後の自習での活用とともに利用者が年々増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の読書活動がほぼ毎日実施され、読書に取り組む習慣が確立してきている。</li> <li>学校図書館の自習室としての活用も定着してきている。さらなる活用を目指す。</li> </ul>	◎

<p>体験・交流活動および継続的なキャリア教育</p>	<p>ボランティア生徒数 A=100名以上 B=80~100名 C=79名以下</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域等での異年齢交流ボランティア活動</li> <li>・体験活動の実施</li> <li>・職場体験及び上級学校訪問等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域等での異年齢交流ボランティア活動には、250名の参加があった。</li> <li>・2年生は職場体験、1年生は都内企業への職場訪問を実施し、事前事後学習にも意欲的に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動への積極的な参加が増加し、予定人数に対して抽選となることもあった。</li> <li>・古典芸能の体験活動と鑑賞に取り組んだが大変好評であった。今後も様々な企画を考え、実施していきたい。</li> <li>・地域からの要請も増加し、活発な交流の場となっている。</li> </ul>	<p>◎</p>
-----------------------------	---	---	---	---	----------

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ア 学力向上アクションプランについて

【成果】・令和5年度区調査通過率は令和4年度60.8%から67.8%に+7.8%大きく上回った。

- ・毎日のデイリーノートや家庭学習ノートの提出率は85%となった。学習委員会がキャンペーン活動を実施したり、良い見本となる家庭学習ノートの展示を実施したことによる成果が現れた。生徒の主体的な取り組みの成果であり、今後も継続させていきたい。
- ・学校図書館を活用し、自学自習に取り組む生徒が増加した。

【課題】・国語において、文章の要約、調べた内容を文章にすることを苦手とする生徒が多い。

- ・英語において、記述式の問題を苦手とする生徒が多い。
- ・数学において、式による表現を苦手とする生徒や誤答のある生徒が多い。

【対策】・国語において、スピーチの発表時に話を聞く際のメモの取り方を指導し、聞いたことを文章にまとめる練習や単元の最後に200字作文などの課題に取り組ませる。

- ・英語において、ライティング力を定着させるため、単語の小テストを継続させていく。また、既習文法事項を使った日常的な英文のライティングテストを実施していく。
- ・数学において、計算過程を大事にすることにより、系統立てて自力解決するように指導していく。

#### イ 豊かな心をもつ生徒の育成について

【成果】・生徒会による全学年の交流レクリエーション（生徒会企画）や他学年への応援活動など、生徒の企画・運営による活動により、生徒同士の健全な交流が深まり、学校全体の生徒活動が活性化した。

- ・生徒アンケートより「仲間を大切に、思いやりの気持ちをもって仲間と接している」の問いに対して、肯定的評価が98%あった。仲間同士のトラブルがあってもその都度解決し、良い関係を保とうと努力している様子が見られた。
- ・ボランティア活動に積極的に取り組む生徒が増え、地域とのかわりも増加した。今後も奨励していく。

【課題】・不登校の状況には様々な理由があり、不登校生徒の減少に課題が残る。

【対策】・校内の支援委員会を活用したり、外部機関やスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとともに共通理解を図り、具体的な対応につなげていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

本校では生徒の自治活動に力を入れています。生徒会活動では、委員会活動や部活動で上級生がリーダーシップを発揮し、違う学年同士でも一体となって活動に取り組んでいます。例えば、学習委員会では定期テスト前に委員が予想問題を作成し、予想問題に取り組むなどの活動を実施しています。家庭学習においても生徒からの声掛けを通じて、家庭学習の定着に取り組んでいます。生徒会が中心となって取り組む生徒企画では、生徒が企画・運営に取り組み、学校全体で行事を楽しんでいます。今後も生徒の自治の力を伸ばしていきます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

学校の二大行事である「運動会」「江北桜祭」は、生徒の実行委員会が中心となり行事を支えています。ここ数年の厳しい状況の中でもその流れは止まらずにしっかりとその伝統を継承してきました。これからも良き伝統を継承し、さらに発展させるよう生徒と教職員が一体となって、努力していきます。